

「子どもまちづくり講座」に関する調査研究

村井 義史*

- I はじめに
- II 調査研究事業の趣旨
- III 子どもまちづくり講座の企画・立案
 - 1. ねらいの設定
 - 2. テーマの設定
 - 3. 講座内容の設定
 - 4. 市町村教育委員会との連携
 - 5. 現地講師の依頼
- IV 平成15年度実践恵那市「私たちの大井宿マップ」をつくろう
 - 1. テーマ
 - 2. 恵那市大井宿
 - 3. 日程
 - 4. 現地講師
 - 5. 講座の実際
 - 6. 講座を終えて
- V 本巣市 みんなで知ろう「淡墨桜」を活かした村づくり・ゆめづくり「根尾」
 - 1. テーマ
 - 2. 本巣市根尾
 - 3. 日程
 - 4. 現地講師
 - 5. 講座の実際
 - 6. 講座を終えて
- VI 子どもまちづくり講座の成果と課題
 - 1. 子どもたちのまちに対する見方が変わった
 - 2. 子どもたちの夢やねがいが膨らんだ
 - 3. まちの人々の思いを感じ取ることができた
 - 4. 子どもたちにとって思い出に残る3日間になった
- VII おわりに

I はじめに

平成14年度より完全学校週5日制が実施された。県内の市町村においては、これに対応するいろいろな取り組みがなされ、地域の教育力を高めて地域で子どもを育てる環境の整備が進められている。県民政策室では、岐阜経済大学地域連携推進センター長(同大学地域経済研究所長兼務)鈴木誠教授の指導を受け、平成15年度から「子どもまちづくり講座」調査研究事業を

*岐阜県地域県民部県民政策室課長補佐

実施している。ここでは2年間の調査研究結果を報告する。

II 調査研究事業の趣旨

岐阜県では、平成12年に生涯学習の推進に関する事務を知事部局に移管した。それは、生涯学習が「個人による生涯を通じた学習」から「地域づくり・まちづくり」へと一体化しつつあることや、多様化・高度化する県民ニーズに的確に対応するためである。現在、生涯学習に関する事務は地域県民部県民政策室が担当し、学習の成果を地域づくり・まちづくりに活かす「実践・行動する生涯学習」を推進している。

学校週5日制に対応する子ども向けの講座は、73市町村で217講座(H15.4調査結果)が実施されているが、「まち(地域)」あるいは「まちづくり」に視点をあてた子ども向け講座は少ない。そこで、まちづくりに視点をあてた子ども向け講座「子どもまちづくり講座」の効果的な実施方法の調査研究を始めることとした。平成15年度は恵那市において、平成16年度は本巣市において講座を実施した。

III 子どもまちづくり講座の企画・立案

1. ねらいの設定

子どもたちが自分のまち(地域)に目を向け、まちに対する視野を広げるとともに、誇りと愛着をもつことができるようにすることが、この講座のねらいである。こうした、子どもたちが自分のまちと関わりをもつことができるようにすることは、将来自分のまちを愛し、自分のまちで生きることにつながると考える。

2. テーマの設定

まちを見る視点は、歴史、自然、福祉、観光

などいろいろ考えられる。子どもたちにどんな視点で自分のまちを見つめてほしいかや、どんなことに気づいてほしいかなど、テーマの設定は重要なポイントである。恵那市の講座では「歴史と観光」という視点で、本巣市の講座では「地域おこし」という視点でテーマを設定した。

3. 講座内容の設定

講座は小学生を対象とするため、夏休みに1週間の間隔をおいた3日間の開催とした。基本的には、次のような講座内容とした。

〈第1日〉講義：まちづくり、まちへの理解を深める活動である。

〈第2日〉演習：フィールドワーク（まち探検）
まちを観察しながら課題を調べ、問題意識やまちづくりのテーマを明確にしていく作業である。文章や統計では把握できない、まちのいろんな姿をその場に出かけて見聞きし、体験し、感じ、さまざまな発見をするための活動である。

〈第3日〉演習：フィールドワークのまとめ（ワークショップ）フィールドワークで見聞きしたこと、体験したこと、感じたことなどの発見したことを、皆で知恵やアイデアを出し合ってまとめる活動である。

4. 市町村教育委員会との連携

講座は実施市町村の教育委員会と連携を図りながら実施した。教育委員会には、講座の企画・立案の段階から、市内小学校への講座の広報と参加者の募集、会場の手配やフィールドワークまで全面的に協力を得ることができた。

5. 現地講師の依頼

子どもたちがまちのことをよく知るために、その地域でまちづくりに関わっている人々から直接に思いや考えを聞くことが大切である。教育委員会の協力を得ながら関係者へ講座の趣旨を伝え、協力を得ることができた。

IV 平成15年度実践 恵那市「私たちの大井宿マップ」をつくらう

1. テーマ

歴史あるまち大井宿へ多くの人に訪れてもら

うために、まちづくりの視点で見つめ直し、未来へ発信する「私たちの大井宿マップ」をつくりあげてをテーマにした。

2. 恵那市大井宿

大井宿は、中山道69宿のうち、江戸から数えて46番目の宿場です。全長は6町半(約710m)で、美濃16宿でもっとも繁栄した宿場といわれる。格式高い本陣の門や、格子戸のある庄屋宅、うだつと黒壁の美しい旧家などが静かにたたずみ、当時のにぎわいを見せた大井宿が忍ばれる。恵那市では地元小学校では「総合的な学習の時間」に取り上げ、子どもたちが大井宿への理解を深めている。

3. 日程

第1日 平成15年8月4日(月)

会場：市役所会議棟

8:40 9:00 12:00

受付	「私たちのまちはどんなまち？」 ▷まちづくりとは？ ▷恵那市の願い ▷大井宿の紹介
----	--

第2日 平成15年8月11日(月)

会場：恵那市立大井小学校

8:40 9:00 12:00 13:00 14:30

受付	「私たちの大井宿のよさ見つけよう！」 ▷フィールドワークの説明(教室) ▷フィールドワーク(大井宿探検)	昼食	「見つけたことをまとめよう！」 ▷探検のまとめ
----	--	----	----------------------------

第3日 平成15年8月18日(月)

会場：市役所会議棟

8:40 9:00 12:00

受付	「私たちの大井宿マップづくりをしよう！」 ▷大井宿マップづくり ▷マップの発表会
----	--

4. 現地講師

中山道かたりべの会 会長 西尾重人氏
他4名

中山道かたりべの会：平成4年に恵那市が開催した郷土紹介ボランティアの養成講座の受講生が、平成7年に設立した観光ボランティアガイド団体。現在会員数36人

恵那市教育委員会社会教育課長

西部良治氏

5. 講座の実際

〈第1日〉

▷まちづくりとはどんなことを学んだ。

(鈴木教授)

まちづくりとは、みんなが安心して住み続けられるように、みんなで協力し合うこと

そのために、

- 1 まちのことをよく知る(ところ、歴史など)
 - 2 まちをよく見る。観察する。
 - 3 まちを素敵なおとこにするためにはたく
- (①自分で、②友だちと、③大人と)

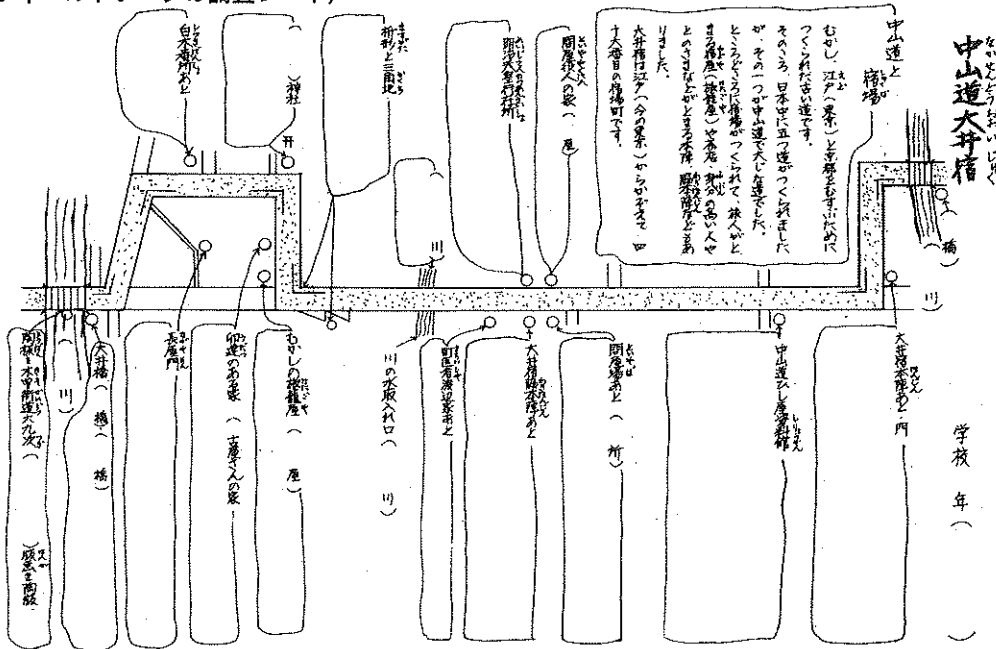
▷恵那市が現在進められているまちづくりについて、その願いや計画を知った。

(西部課長)

▷中山道大井宿について次の観点で理解を深めた。(西尾会長)

- ①今日まで大事に守られているもの…大井宿そのもの、6カ所の枡形・三角地など
- ②文化財として残っているもの…本陣の門、明治天皇行在所、うだつのある家など

〈フィールドワークの調査シート〉



〈江戸時代ヘタイムスリップ〉

③生活として残っているもの…用水路、小路川など

○子どもたちは、私たちのまち「大井宿」はどんなまちかを市役所の方や地域の方から学ぶことができ、特に、西尾会長のユニークな語り口により、第2日のフィールドワークへの子どもたちの興味関心を高めることができた。

〈第2日〉

▷フィールドワークは4つのグループに別れ、各グループに1名ずつ中山道かたりべの会会員が入った。子どもたちへ次のような支援を行うことを打ち合わせて大井宿探検を行った。

フィールドワークの調査シートは西尾会長の手づくりであった。

- ①子どもの生活と接点をもちながら歴史的なことを話す。
- ②クイズ形式などで子どもたちの興味関心を高める。
- ③〇〇跡から中山道の当時の様子をイメージしてみる。

▷午後は、フィールドワークの調査シート整理し、次回までの作業を確認した。

○子どもたちは、フィールドワークを通して、私たちのまち「大井宿」の江戸時代へのイメージを膨らませるとともに、未来へ残したいよさを見つけることができた。

〈第3日〉

▷フィールドワークのまとめは、歴史ある「大井宿」を多くの人に訪れてもらい、子どもも大人も楽しめるまちにするという視点でマップづくりを行った。

○子どもたちは、「私たちの大井宿マップ」づくりを通して、発見したこと・考えたことを4グループそれぞれが創意工夫あるまとめを行い、みんなで交流することができた。

6. 講座を終えて

講座には小学校3～6年生19名(3年生9名、4年生3名、5年生2名、6年生5名、男子6名、女子13名)が参加した。講座を終えて次のようにふり返っている。

知らないところにたくさん行きました。不思議なトイレ、不思議な家、不思議なもや場所がたくさんありました。聞いたことがあるところでも、そこにだれが泊まったかなどはわかりませんでした。探検をして大井宿のことがだいぶわかりました。
(4年女子)

歩いたことのまとめをしました。マップにしてみると、もっとよくわかることができました。この場所に何があるか、グループの子で協力しながらつくっていくことができて楽しかったです。一人でつくるのも、もちろん楽しいけど、みんなのアイデアが集まっているグループで1枚っていうのもいいものだと思います。(6年女子)

また、現地講師の西尾会長の感想は次のようであった。

子どもたちにとってじっくり大井宿を見るよい経験だったと思います。1日目の話をもとに2日目は大変興味をもってまち探検をしていました。この経験によりきっと大人になってからもまちの見方が違ってくると思います。

普段は大人の観光客に説明をしているので、子どもたちに分かるように話をするにはどうしたらよいかずいぶん困りましたが、子どもたちは大人が気づかないようなことを発見するので、私たちも大変勉強になりました。これからの私たちの活動のヒントになります。子どもたちに郷土のことを伝えることは私たちにとって大事な役割だと考えています。私たちもこれからもっと勉強し、幅を広げていきたいと思います。

V 平成16年度実践 本巢市 みんなで知ろう「淡墨桜」を活かした村づくり・ゆめづくり「根尾」

「子どもまちづくり講座」受講生募集 主催：岐阜県 後援：本巢市教育委員会

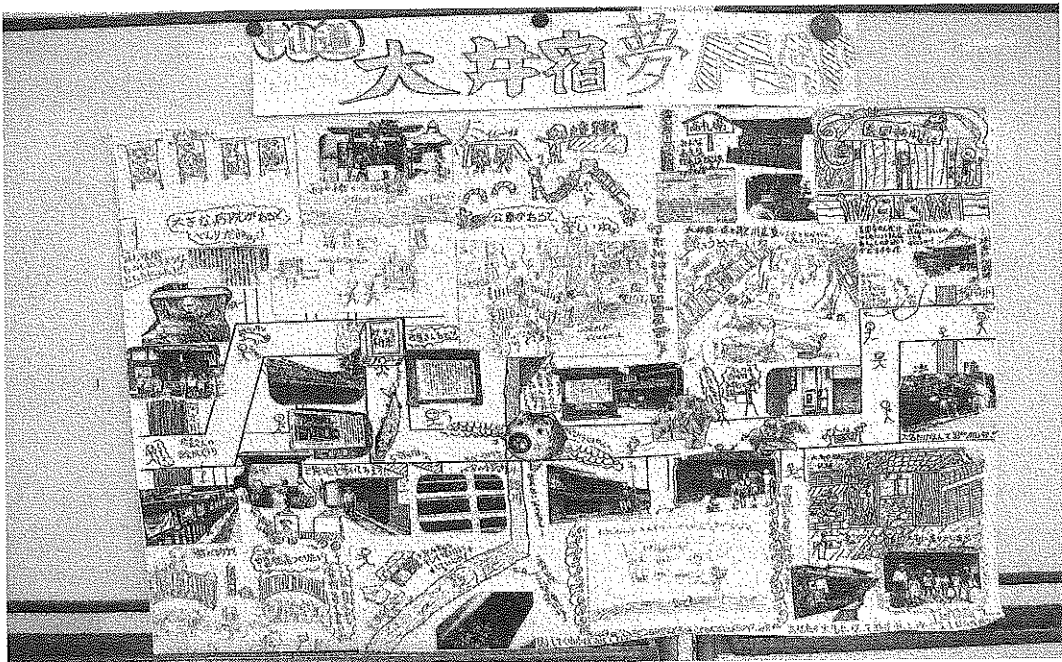


この講座は、皆さんが自分たちのまち(地域)に目を向け、見方を広げて、自分たちのまちをもっともっと大好きになることを願っています。
今回は、「淡墨桜」を活かした村づくりで有名な根尾を探検し、根尾の人々の工夫や努力について知ったことや見つけたことを「夢マップ」にまとめます。
この夏休み、得見駅周辺へ行って、スズキヤ「根尾」を見つければ行かませんか？

期 日	内 容	会場・その他
第1日 8月4日(水) 9:00~12:00	★根尾ってどんなまち(村)？ ▷まちの見方 ▷根尾の紹介 ▷根尾の人々の願い	糸貫ゆめりの里
第2日 8月11日(水) 9:20~15:30	★糸貫駅から得見駅まで乗って根尾探検へ ▷根尾を知ろう ※根尾小学校から得見の児童は現地集合です。	根尾文化センター ★昼食持参
第3日 8月18日(水) 9:00~12:00	★知ったこと、見つけたことをまとめて「淡墨桜の里・夢マップ」をつくらう！	糸貫ゆめりの里

■ 講 師 岐阜経済大学 鈴木 誠 教授、元根尾村長 所 和郎氏 他
 ■ 受 講 料 無料(但し3日分の保険料200円と第2日の得見鉄道運賃(糸貫⇔根尾往復560円)は受講者負担とします。)
 ■ 申 込 方 法 7月8日(火)までに、申込書を担任の先生へ提出してください。
 ■ 問 い 合 わ せ 本巢市教育委員会社会教育課(石部058-323-7764
 岐阜県地域振興部県民政策課(村井)058-272-1111(内線2386)
 ■ そ の 他 1)万が一の事故の場合は、応急処置及び医療の適用範囲内とします。
 2)3日間の受講できない場合も受け付けます。
 3)申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。
 4)受講者へは後日詳しい案内をお送りします。

〈講座案内のチラシ〉



〈完成した大井宿マップ〉

1. テーマ

優れた歴史的・文化的遺産を地域資源として活かした根尾の取り組みを学び、根尾の人々の工夫や努力、公共交通機関の果たしてきた役割、そして私たちにできることは何かについて考えることをテーマにした。そして、「合併により新しく仲間入りした私たちのまち根尾への願い」という視点を設定した。

2. 本巣市根尾

本巣市根尾(旧根尾村)は、人口減少・少子高齢化の中で、根尾のシンボルである「淡墨桜」をキーワードとして「根尾谷地震断層観察館」「NEO桜交流ランド」「NEO自然保養施設」などの交流施設の整備や、真夏の夜のイベントとして定着しつつある「うすずみサマーフェスティバル」などにより、地域の活性化と交流を促進してきた。また、こうした活性化には第3セクター樽見鉄道も一役を担った。

3. 日程

第1日 平成16年8月4日(水)

会場：本巣市糸貫ぬくもりの里

8:40 9:00 12:00

受付	▷「まちづくり」ってどんなこと？ ▷根尾の紹介・根尾の人々の願い ▷樽見鉄道に歴史・役割について
----	--

第2日 平成16年8月11日(水)

会場：本巣市根尾文化センター

8:20 9:30 12:00 13:00 15:00

樽見鉄道 糸貫発 8:37	▷フィールドワークの実際 ①樽見鉄道に乗って車窓から ②根尾を歩いて・聞き取り調査	昼食	▷調査シート整理 ▷地震断層観察館 見学
---------------------	---	----	----------------------------

第3日 平成16年8月18日(水)

会場：本巣市糸貫ぬくもりの里

8:40 9:00 12:00

受付	▷フィールドワークのまとめ 「淡墨桜の里・夢づくり」まとめ ▷成果発表
----	---

4. 現地講師

元根尾村長	所 和 徳 氏
樽見鉄道企画営業課長	今 村 安 孝 氏
淡墨桜樹木医	浅 野 明 浩 氏
根尾の聞き取り調査先	
(公的機関)	根尾総合支所、根尾森林組合、 保健センター、JAもとす根尾 支店、根尾交番、うすずみ特産
(民間)	喫茶亜紀、乾自転車店、根尾タクシー

5. 講座の実際

〈第1日〉

▷まちづくりとはどんなことかについて学んだ。
(鈴木教授)

▷根尾の紹介・根尾の人々の願いについて、次

の視点での話を聞いた。(所元村長)

①根尾はどんなところ？ 根尾にしかない素敵な風景、動植物の様子

②子どもたちが自分のふるさとを誇れるような村おこし、子どもたちの参加

③根尾の見てほしいところ、訪れてほしいところ、根尾の村おこしに期待すること

▷樽見鉄道についてに次の点について話を聞いた。(今村課長)

①樽見鉄道の歴史と担ってきた役割

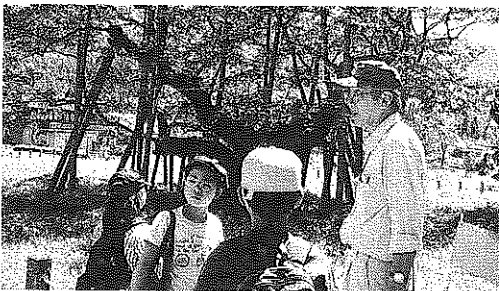
②樽見鉄道がこれから担っていく役割

○子どもたちは、根尾・樽見鉄道について地域の方から学び、認識を深めることができた。所元村長の話は、村を愛する気持ちがいっぱい溢れた話であった。

〈第2日〉

▷フィールドワーク①○子どもたちは、糸貫駅から樽見駅まで実際に樽見鉄道に乗車して、駅の特徴や景色の特徴を見つけた。また、同乗の今村課長の話は、駅舎の特徴、枕木の特徴など、樽見鉄道について初めて知ることをばかりであった。

▷フィールドワーク②○子どもたちは、まず淡墨公園で、樹木医の浅野さんから、樹齢1,500年の淡墨桜を守っていくことへの思いを聞いた。また、聞き取り調査は、時間の関係で、根尾 森林組合、根尾保健センター、JAもとす根尾支店、根尾タクシーの4事業所のみとなったが、子どもたちは根尾の現状と課題について積極的に質問していた。JAもとす根尾支店では、根尾の農作物についてや熊の被害についてや、昔と今の農業の違いなどについての話を興味深く聞いていた。



〈樹木医浅野さんから話を聞く〉

▷午後は、調査シートのまとめを行った。見つけたこと・考えたことを整理した。その後、市のマイクロバスにて、途中地震断層観察館を見学し、帰路についた。

〈第3日〉

▷フィールドワークのまとめでは、仲間入りした私たちのまちである根尾への願いという視点で「淡墨桜の里・夢マップ」づくりを行った。そして、みんなで交流会を行った。

6. 講座を終えて

講座には小学校3～6年生12名(4年生6名、5年生5名、6年生2名、男子4名、女子8名)が参加した。

講座後のアンケートでは、ほとんどの子どもが「家族と一緒に根尾に行くとしたら淡墨桜」
「楽しかったから次回もこの講座に参加したい」と答えていた。

また、この講座の企画に協力を得た本巢市教育委員会社会教育課の石原学社会教育主事に今回のテーマ設定について聞いた。

平成16年2月に合併して誕生したばかりの本巢市南部の子どもたちが、自然条件や社会条件が大きく異なる北部の根尾地域を体感しながら眺めることができた「子どもまちづくり講座」は、大きな意味があったように思います。本巢市は「自然と人が共生し、快適でこころふれあうまち」をめざしています。将来を担う子どもたちが、郷土の認識を広げ、新たな視点をもって我が郷土を見ることができたように思います。人の営みや、人と人とのつながりの中からまちづくりを考えていくことが求められる今、フィールドワークを通して自分自身で得た見方や考え方こそが、将来に役立ってきます。教育委員会としても注目の取り組みでした。

VI 子どもまちづくり講座の成果と課題

1. 子どもたちのまちに対する見方が変わった
大人も子どもも普段は便利な交通手段に頼ってしまい、歩いてまちを見る機会が少ない。し



〈大井宿探検の様子:小路川を覗く〉

かし、何気なく通り過ぎているまちも、目を凝らして見つめてみると、新しい発見がいっぱいある。恵那市の子どもたちは、学校などで大井宿について学習しているが、中山道かたりべの会のアドバイスで新しい発見をし、江戸時代へタイムスリップした。同様に本巣市の子どもたちも根尾の淡墨桜は桜の名所としてよく知っているが、根尾の人々が一生懸命にこの桜を守っていることにふれ、薄墨桜や根尾に対する見方が変わった。また、樽見鉄道に初めて乗るとい

〈淡墨桜の里・夢マップ〉



う子どももいた。鉄道の果たしてきた役割を知ることが樽見鉄道が少し身近になった。

この講座は、子どもたちが自分のまちのよさを発見する絶好の機会である。そのため、その企画にあたっては、まちの歴史やよさを十分に知り、視点を設定する必要がある。

2. 子どもたちの夢やねがいが膨らんだ

大井宿探検では子どもたちからいろいろなアイデアが生まれた。例えば、小路川(しょうじかわ)という川があり、かつては防火用水として大火の延焼をくい止めた歴史がある。現在はコンクリートで覆われ、道路となっているが、水路を覗くときれいな水が流れている。そこで子どもたちは、「自分たちも観光に来た人たちも楽しんでもらえるように、川の覆いを取り除いて昔のような川に戻して魚を放し、子どもたちが水遊びのできる楽しい川にしよう。」というのである。こうして生まれたアイデアや夢は、子どもたちの手によって模造紙いっぱいに表示された。このマップづくりという方法は、つくりながらさらに夢やねがいが膨らんでいく。子どもたちにとって、マップをつくりあげるに



〈グループで夢マップづくり〉

はかなりの時間がかかるが、夢や願いが形になっていることが楽しさにつながった。今後はマップづくりの時間配分や多様な表現ができるよう工夫する必要がある。

3. まちの人々の思いを感じ取ることができた

恵那市では、子どもたちが、中山道かたりべの会の方と一緒にフィールドワークをすることで、会員の方々の「大井宿の歴史を多くの人に伝えたい。」という思いを感じ取ることができた。また、本巣市では、元根尾村長から村おこしの工夫や苦労話を聞いた。さらに、まちに出て聞き取り調査を行うことで、まちの人々の思いにふれることができた。保健センターでは、独居の方や高齢の方へのサービスを工夫していること、タクシー会社では、昔と今の利用者の変化など、子どもたちは具体的な話を聞き、熱心に調査シートに記入していた。地域の方に接し、話を聞くことはこの講座の大切な手法である。まちづくり講座における現地講師の重要性を再認識した。

4. 子どもたちにとって思い出に残る3日間になった

前述のことから、参加した子どもたちにとって思い出に残る3日間になったと考える。

小学生を対象としたため、課題意識や学習意欲の継続という面から、今回のような夏休みに1週間ごとの3日間設定すること、3日間の講座内容を、講義・フィールドワーク・マップづくりによるまとめとすること、などこの講座のあり方として成果があった。しかし、フィールドワークが広範囲になったり、テーマが多様化

したりすると、活動時間を十分確保する必要があり、今回の講座でもやや時間不足を感じた。また、暑さのため体調を崩す子どももいたため、活動の安全確保など、十分な配慮が必要である。

Ⅶ おわりに

試行錯誤で取り組んだ2年間の調査研究の結果であり、今後、さらによりよい講座のあり方を探っていきたい。また、この結果をもとに各市町村で「子どもまちづくり講座」が実施されれば幸いである。

最後に、現地でご指導いただいた講師の皆様、本事業に実施にあたり協力をいただいた恵那市教育委員会、本巣市教育委員会、両教育委員会の担当の方々にお礼申し上げる。

参考文献

『みんなのまちづくり入門』鈴木 誠著、大垣まちづくり市民活動支援センター刊、2002年

『平成子どもふるさと検地』特定非営利活動法人全国生涯学習まちづくり協会著、2002年